



No.115 2021.7.19

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

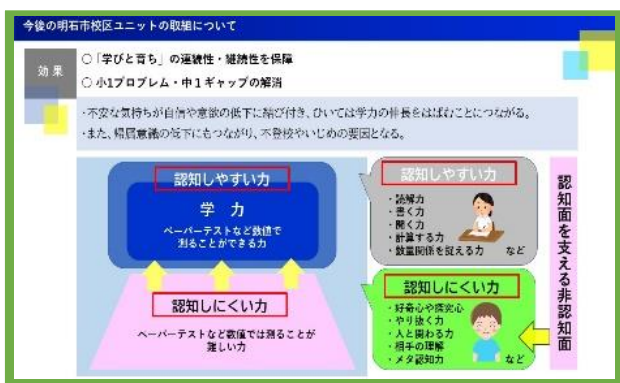


コミスク TwitterQR

第1回チーム中学校区 UNIT 会議が開催されました

7月13日(火)に第1回チーム中学校区 UNIT 会議がオンラインで開催されました。今回から、明石市立全幼稚園、全保育所、子ども園に参加していただき、新たな明石の校区 UNIT がスタートしました。

学校教育課金井課長のあいさつでスタートし、校区 UNIT 担当の本所指導主事より「明石市校区 UNIT の方向性と取組」の説明のあと中学校区 UNIT ごとにブレイクアウトルームでの交流へと移っていきました。



本所指導主事からは就学前からの学びと育ちの連続性・継続性を保証する意義を、まず「認知しやすい力(認知スキル面)」を支える「認知しにくい力(非認知スキル面)」の育成面から考える説明がおこなわれました。

次に、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」・「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」・「小学校学習指導要領」・「中学校学習指導要領」

「特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領」から“就学前教育における学び”と“小学校・中学校における学び”を探りながら、就学前での「ヒヤシンスの栽培」、小学校での「インゲンの栽培」、中学校での「蒸留の実験」を例にあげながら学びの質の変化等を説明されました。説明の中では、幼稚園児は「ヒヤシンスが元気に育てほしい」という情意面が活動を支え、「“ヒヤ”は“冷やっこい”の“ヒヤ”から来ていると考え、涼しい日影が最適と考え、大きくなるのを楽しみにしていたが元気がなくなっていく中で、心配になり置き場所を変える」という無自覚な学びが、小学校になるとインゲンの栽培では条件面を変えるとといった自覚的な学びに、そして中学校になると蒸留での学びでは蒸留という科学的操作を身の回りの生活に生かそうという学びの質が変わっていくという説明は具体的にイメージしやすいものでした。学びの質がどのように深まっていくかは子どもの学びと育ちの連続性・継続性を考える上では必要だと感じました。

今後の明石市校区ユニットの取組について

○就学前における学び

○小学校・中学校における学び

○小学校・中学校における学び

無自覚な学び

↓

自覚的な学び



説明を聞きながら就学前での学びは情意面の動機が幼稚園児を主体的に動かし、試行錯誤につながっていると感じました。小1プロブレムを考えた時、小学校での学びを就学前におろしていくのではなく、生活科が導入された原点に戻り、就学前の「〇〇したい」といった情意面での動機が自然な形での主体的・対話的で深い学びを生みだしていくという学びの流れを小学校低学年でも活かしていくことが必要だと感じ

ました。そういった学びや育ちの質の高まりの連続性を各中学校区での就学前から小学校・中学校までの学びと育ちをつなぐランドデザインのなかに生かしていくことが必要ではと考えています。また、各中学校区でのランドデザインを考えるベースには「“持続可能な社会を創り、支える” 資質・能力を身に付けた市民を育てる」という視点が必要だと考えます。こうしたランドデザインづくりは、中学校区全体で学びのイノベーションをめざすコミュニティ・スクールへつながっていくのではと考えます。

“さあ、これからが保育者の出番！”

(参照：エデュケーレ 84号 2018年3月号)
http://ikuji-hoiku.net/educare_wp/staffblog/1853.html

第1回チーム中学校区UNIT会議が終わったあと、ある方から「指針・要領が変わった“さあ、これからが保育者の出番”」といった資料を紹介していただきました。正直これまで保育所指針を見たことがなく、学びと育ちの連続といいながら、その基になるところが抜けていたと反省しているところです。

今回の保育所保育指針の中では、幼稚園・認定こども園だけでなく、保育園も「幼児教育を行う施設」という記述が入り、今回の改定の要は「未来を見すえた幼児教育改革」と

して3つの資質・能力として①個別の知識・技能（個別知）・②思考力・判断力・表現力等（実践知）・③学びに向かう力、人間性等が示されています。こうした改訂をもとに、「今おこなっている保育が時代に沿ったものなのか、また未来につながるものなのか」といった視点での研修や見直しがおこなわれていることを聞きました。就学前から小学校・中学校までの12年間+αを通して「“持続可能な社会を創り、支える” 資質・能力を身に付けた市民を育てる」といった視点を持ち、まず各校園所のランドデザインを考え、各中学校区でのランドデザインにつなげ、12年間+αの学びと育ちの連続性を考えていくことが必要なのではと考えます。

(文責：北本)